

倶多楽の火山活動解説資料（平成29年6月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①）

23日13時31分頃から、大正地獄の熱湯噴出によると考えられる震動波形を近傍の地震計で観測し、監視カメラでも大正地獄から平常時より多い噴気を観測しました。24日以降、熱湯の噴出によるとみられる震動波形や、平常時より多い噴気は観測されていません。大正地獄の局所的な熱湯噴出は過去にも度々みられており、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図2-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図2-③）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

次回の火山活動解説資料（平成29年7月分）は平成29年8月8日に発表する予定です。



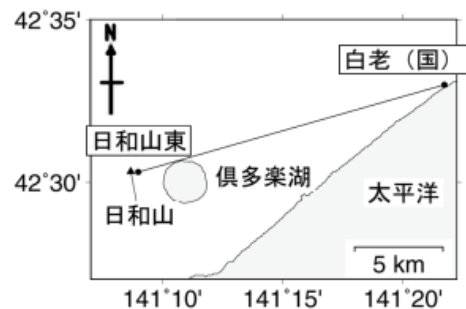
図1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況 (414m山監視カメラによる)

- ・左：6月20日の状況：日和山山頂爆裂火口の噴気活動は低調に経過しました
- ・右：6月23日 14時42分頃の状況：大正地獄から平常時より多い噴気を確認しました



図2 倶多楽 火山活動経過図 (2007年1月～2017年6月)

- ・②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します
- ・③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています
- ・(国)：国土地理院
- * 1：楕円内の変動は、2011年3月11日に発生した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の影響によるものであり、火山活動によるものではありません



GNSS連続観測点配置図

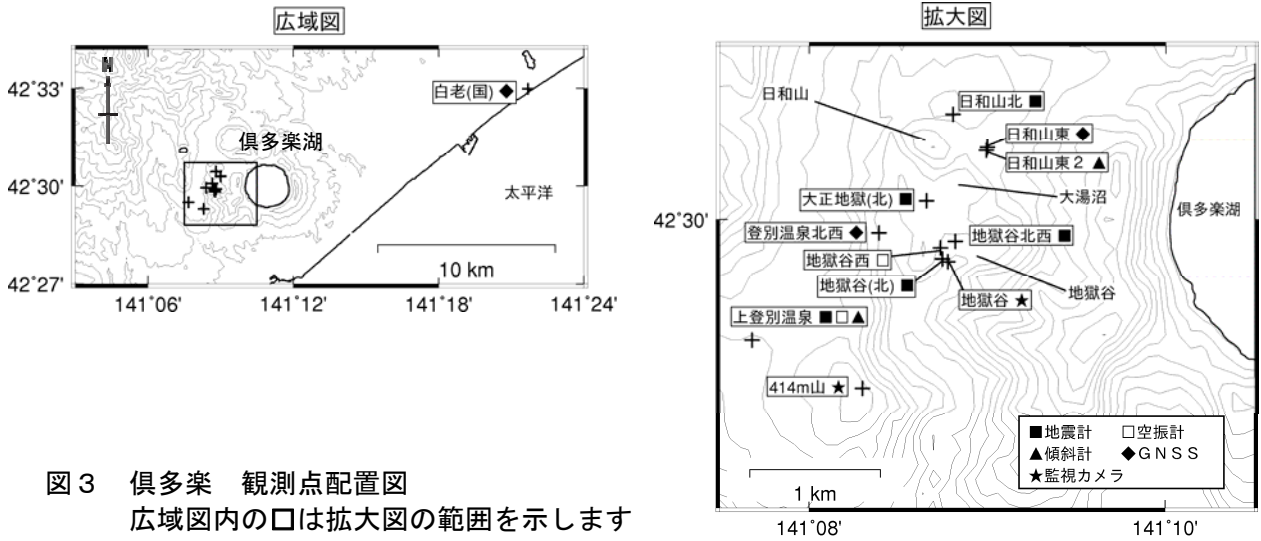


図 3 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します

+印は観測点の位置を示します

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学